

研究・調査報告書

報告書番号	担当
13	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Gene-environment interactions and alcohol use and dependence: current status and future challenges. 遺伝子と環境の交互作用と飲酒およびアルコール依存: 現状と今後の挑戦。	
執筆者	
van der Zwaluw CS, Engels RC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2009 Jun;104(6):907-14. Review.	
キーワード	
飲酒、アルコール依存、遺伝子環境研究	
要旨	
目的: 飲酒とアルコール依存に重点を置いた、遺伝子と環境の交互作用についての研究を議論すること。さらにまた、私たちは遺伝子と環境についての研究の難しさに注目した。	
方法: アルコールを結果として用いた研究で、遺伝子と環境の交互作用についてエビデンスの概観。および遺伝子環境研究に関連した挑戦の概観。	
結果: 遺伝子と環境の交互作用で、原因となりうる役割はますます注目されている。双子を用いたデザインの研究では遺伝子が関連する環境への影響を調べ始めている。また、遺伝子と環境の交互作用は霊長類でアルコールを摂取することに影響を与えることが動物実験ではわかっている。13の研究は、遺伝子と環境の交互作用を人間の飲酒やアルコール依存との研究に組み込んでいた。 これらの研究ではさまざまな候補遺伝子と環境のリスク要因が示された。そして、こうした候補遺伝子が不均一であったため、確固とした一般的結論を導き出すことは不可能となった。	
結論: 今後の遺伝子環境研究の挑戦は、無限の可能性がある。例えば、神経学的なメカニズムに関する理論上の明確な仮定を設けることや、幼年期に既に始まっているサンプル数等の大きな縦断的研究に加入すること等からなる。 偽陽性結果を積み重ね続けることを防ぐために、反復研究は不可欠である。困難にもかかわらず、人間のアルコールを結果とする因果関係学的要素をひも解くために、遺伝子と環境の交互作用を未来の研究に組み込むことは重要である。	